

夏季吟道大学時間割

7月15日(土)

時間	項目／講師
12:00	JR三河安城駅 新幹線北口集合
12:35~12:55	注意事項伝達、事務局通達及び世話役紹介
13:00~13:30	〈開講式〉
13:30~13:50	一、吟劍詩舞道憲章の精神と財団の組織改革／沼崎富会長
13:50~14:20	二、審査規定の解説とコンクール審査の実態／徳田寿風副会長
14:20~14:35	三、公益財団の組織運営と指導者の役割／池内賢二専務理事
14:35~15:10	〈休憩〉【チェックイン】
15:15~16:45	四、漢詩觀賞／漢詩家 鷺野正明先生
17:00~17:45	〈夕食〉
18:00~19:30	五、声の衛生／医師 角田晃一先生
19:40~20:40	六、班別座談会
20:45~21:45	〈点呼、とり舟体操の稽古、閉講式リハーサル〉
22:00	〈帰室・就寝〉

7月16日(日)

時間	項目／講師
6:00	〈起床〉
6:20~6:50	〈点呼、とり舟体操〉
7:00~8:00	七、意見交換会 一吟詠の普及振興をめぐって
8:00~8:50	〈朝食〉
9:00~9:10	【チェックアウト】班別に手荷物整理後、会議場集合
9:15~9:25	〈休憩〉
9:25~10:55	八、吟詠研修／徳田寿風副会長
11:00~11:50	九、吟詠講習／池田嶺煌先生
11:50~12:30	〈昼食〉
12:30~14:20	十、研修吟詠
14:20~14:30	〈記念撮影〉
14:30~14:50	〈閉講式〉
14:50~15:00	事務局通達

日本財団助成事業 令和6年度 夏季吟道大学開催

日時：令和6年7月20日(土)～21日(日)
場所：愛知県碧南市・勤労青年水上スポーツセンター
主催：公益財団法人日本吟劍詩舞振興会

コロナ禍以降の一昨年より、規模を縮小して愛知県の勤労青少年水上スポーツセンターにて開催されている「夏季吟道大学」。日本全国から吟詠の指導者が集い、さらに深く吟詠について学ぶとともに、同じ道を歩む吟友と交流を深めるという貴重な研修の場。今年も39人の受講生が一堂に会し、さまざまな講義や吟詠研修に浸る貴重な2日間を過ごしました。

閉講式の前に記念撮影する受講生と役員、世話人の方々。受講生はエントリーした41人のうち2人が欠席して39人が参加。4班に分かれて班別座談会などで意見を交換、連絡先を取り合うなど交流を深めた
講師と講義の内容
(二时限目は審査規定の解説とコンクール審査の実態、六时限目は班別座談会、七时限目は意見交換会、十时限目は研修吟詠)

〈一时限目〉沼崎 富会長
吟劍詩舞道憲章の精神と財団の組織改革
昭和44年10月に設立された日本吟劍詩舞道振興会の規範である吟劍詩舞道憲章を解説

〈一时限目〉池内 賢二専務理事
公益財団の組織運営と指導者の役割
水上スポーツセンターの説明に始まり、公益財団の定義などを専務理事の立場から説明

〈一时限目〉鷺野 正明先生(漢詩家)
漢詩觀賞
「季節を感じて」と題し、暦の説明から四季の詩として杜牧『晴明』、白居易『夜雪』などを解説

〈一时限目〉角田 晃一先生(医師)
声の衛生
喉の説明から誤嚥の予防、声帯萎縮改善対策実践的な内容をパネルを用いて詳細に解説

〈一时限目〉徳田 寿風副会長
吟詠研修
「美しく明瞭な発声発音について」では、口と舌のストレッチやバマタカラ体操など実技を指導

〈一时限目〉池田 嶺煌先生
吟詠講義
徳川景山『大楠公』を元にして読みや母音などを解説。後半は研修吟詠と歩き方等も指導した

介。その世話役の「受講生起立！礼！直れ！着席！」というかけ声とともに式や講義が開催されます。

まず早淵鶴将副会長が「二つでも多くのことを学び、地元に戻つてから同じ道を歩む方々と共有していくだけがいい」と「開講のことば」。沼崎富会長が「新たな多くの発見ができる喜びとともに、初心を見つめ直すいい機会であると考えております」と挨拶。続いて黒石龍光1班班長が受講生誓いのとこば。さらには石堂光聖子2班班長の先導によ

り、「桂林莊雜詠諸生に示す その『の記念吟合を行いました。

一时限目(五时限目)

13時半から一时限目開始。三时限目まで例年と同じ项目で約1時間にわたり開催。チェックインに続き、四鑑賞。十干十二支の説明後、入声など中国語の発音を解説。四季の詩の紹介へつなげました。

夕食後の五时限目は国立病院機構東京医療センター耳鼻咽喉科・音声言語学科の角田晃一先生が「声の衛生」について講義。喉の役割から話を始めました。

19時40分から「吟劍詩舞の将来のあるべき姿、目指す方向」をテーマに班別座談会。各班に世話役も参加し、熱心に意見を交換。その内容は班長・副班長がまとめて翌日の「意見交換会」で発表(●ページ参照)。その後翌朝のために点呼・とり舟体操の練習を行い、22時に1日目のカリキュラムを終了、ようやく就寝となりました。



たくさんのパネルを用いて「声の衛生」について講義する国立病院機構東京医療センターの角田晃一先生

指導者として吟道を究める2日間



受講生代表として、沼崎学長に「誓いのことば」を述べる黒石龍光1班班長

7月20日(土)
漢詩や声についての貴重な講義も

昭和44年に山梨県本栖湖の全国モーターボート競走会連合会本栖研修所で第1回が開催されて以来、湘南国際村センター、成田東武ホテルエアポートと場所を移してきた夏季吟道大学。コロナ禍により3年間中断、令和4年度から公益社団法人日本モーターボート選手会が運営。管理する愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターで開催となっていました。

開講式

今回は日本全国から39名が参加。開講式に先立ち、浅田聖謙、石川春海、大山宗鵬各少壮吟士と地元の鳥居翔鵬さんの4人を世話人として紹介されました。



閉講式の前に記念撮影する受講生と役員、世話人の方々。受講生はエントリーした41人のうち2人が欠席して39人が参加。4班に分かれて班別座談会などで意見を交換、連絡先を取り合うなど交流を深めた

講師と講義の内容

(二时限目は審査規定の解説とコンクール審査の実態、六时限目は班別座談会、七时限目は意見交換会、十时限目は研修吟詠)

〈一时限目〉沼崎 富会長

吟劍詩舞道憲章の精神と財団の組織改革
昭和44年10月に設立された日本吟劍詩舞道振興会の規範である吟劍詩舞道憲章を解説

〈一时限目〉池内 賢二専務理事

公益財団の組織運営と指導者の役割
水上スポーツセンターの説明に始まり、公益財団の定義などを専務理事の立場から説明

〈一时限目〉鷺野 正明先生(漢詩家)

漢詩觀賞
「季節を感じて」と題し、暦の説明から四季の詩として杜牧『晴明』、白居易『夜雪』などを解説

〈一时限目〉角田 晃一先生(医師)

声の衛生
喉の説明から誤嚥の予防、声帯萎縮改善対策実践的な内容をパネルを用いて詳細に解説

〈一时限目〉徳田 寿風副会長

吟詠研修
「美しく明瞭な発声発音について」では、口と舌のストレッチやバマタカラ体操など実技を指導

〈一时限目〉池田 嶺煌先生

吟詠講義
徳川景山『大楠公』を元にして読みや母音などを解説。後半は研修吟詠と歩き方等も指導した



沼崎富会長以下役員、講師、受講生がそろって記念写真。コロナ禍前の平成30年度の受講生は92人だったが、2年前の前回から施設の規模により半分以下で開催

令和6年度剣詩舞道大学 時間割

2月15日(土)

時間	項目／講師
12:00	JR三河安城駅 新幹線北口集合
12:35～12:45	注意事項伝達、事務局通達及び世話役紹介
12:50～13:10	〈開講式〉
13:10～13:30	一、剣詩舞指導者への期待／徳田寿風副会長
13:30～13:50	二、剣詩舞指導者への提言／早淵鯉将副会長
13:50～14:05	三、公益財団の組織運営と指導者の役割／池内賢二専務理事
14:10～15:40	四、／早淵鯉将副会長
15:40～16:00	〈休憩【チェックイン】新しい審査方法について
16:00～17:30	五、こんなこと言っちゃなんだけ吟剣詩舞／青野紘三先生
17:30～18:15	〈夕食〉
18:20～19:40	六、剣詩舞の演技研究／藤上翔山理事他
19:50～21:00	七、班別座談会(剣詩舞の振興をめぐって)
21:10～22:00	〈点呼、とり舟体操の稽古、閉講式リハーサル〉
22:00	〈帰室・就寝〉

2月16日(日)

時間	項目／講師
6:00	〈起床〉
6:20～6:50	〈点呼、とり舟体操〉
7:00～8:00	自室に戻り着替え・荷物の移動
8:00～8:30	〈朝食【チェックアウト】〉
8:45～9:00	バスで碧南市東部市民プラザへ移動
9:00～11:40	八、剣詩舞実技指導／上岡暁社・青柳弦太朗代議員
11:40～11:55	バスで勤労青少年スポーツセンターへ移動
12:00～12:30	〈昼食〉
12:35～12:45	〈記念撮影〉
12:55～13:55	九、意見交換会(班別座談会で出た意見の発表)
14:00～14:20	〈閉講式〉
14:20～14:25	事務局通達

新審査方法の解説と 武道館大会復活に向けて



昭和44年に創設された「夏季吟道大学」に続き、平成4年から開催されている「剣詩舞道大学」。「群舞コンクール」がない年に年おきに開催されてきましたが、コロナ禍での中止を経て、昨年に4年ぶりに再開、今年も予定通りに開催されました。剣詩舞コンクールの審査方法変更の説明のため、参加者は審査員をされている方が中心。結果的に宗家・会長クラスが多いレベルの高い大学となりました。

日本財団助成事業 剣詩舞道大学開催

日時：令和7年2月15日(土)～16日(日)
場所：愛知県碧南市勤労青少年水上スポーツセンター
主催：公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

日本モーターボート選手会の施設「勤労青少年水上スポーツセンター」の多目的室にて、開講式で挨拶する沼崎富会長。全国から37名の受講生が集まり、熱心に講義に聴き入るとともに実技研修も行った

授業が終了しました。

【中国詩】「詩舞」振付説明 杉浦英容理事

『絶句』(杜甫)。去りゆく春を惜しみ、望郷の思いを詠じた杜甫の詩を例に、詩文の意味と作者の思いを、いかに振りや扇子を用いて表現するかということを解説



【和歌】 「詩舞」振付説明 見城星舟代議員

『和歌・風になびく』(西行)。放浪の詩人、西行が亡くなる数年前に作った詩として「風に乗ってどこまでも果てなく心を投げ出してしまえ」という感じで振付をした」と説明



〈七时限目〉 班別座談会 剣詩舞の振興をめぐって

前回はコロナの影響で実施しなかった班別座談会が復活。1班には早淵鯉将副会長、見城星舟代議員、石川春海世話役が参加するなど、4班に分かれて3人の先生方が参加して助言。少子高齢化や愛好者の減少などで低迷する剣詩舞界をどのようにしたら復興できるか、70分かけて話し合いました。その内容を班長・副班長が中心となってまとめ、翌日の午後、「意見交換会」として発表しました(6ページ参照)。

夕食後も授業は続き、六时限目は6人の剣詩舞専門委員による「剣詩舞の演技研究」。それぞれの項目の曲にそつて、いかに振付をするか解説しました(下の写真参照)。さらに七时限目は、前回コロナ禍のためにできなかつた「班別座談会」。そして翌日の点呼、とり舟体操等の稽古後、22時すぎによりやく初日の授業が終了しました。

【日本詩】「劍舞」振付説明 入倉昭星理事

『八幡公』(頬山陽)。「高齢者用にあまり膝を曲げない振りも作った」とまず演舞。結局全員終了後、激しくジャンプする若者向けの振りも披露することになった(写真)



【日本詩】「詩舞」振付説明 藤上翔山理事

『芳野懷古』(柳川星巖)。これまで振りが付いていないで今回初めて挑戦したこと。転句の「満山白し」のところで二枚扇子でその情景を表すなど表現の仕方を解説



【中国詩】 「劍舞」振付説明 多田正晃代議員

『涼州詞』(王之涣)。おもに刀に絞り込んで解説。中国詩ということで、遠心力をを使って斬る青龍刀の表現や、杖(じょう)に見立てる方法などを細かく説明



の重要なテーマである「新しい審査方法について」。剣詩舞専門委員長

でもある早淵鯉将副会長が、令和8年度を目処に審査方法を変更したいということで、現行の採点表と新しい採点表を配布して比較。実際に剣舞と詩舞の模擬演舞を全員で採点しました。

五时限目は永年にわたり吟詠・剣詩舞に関するCD・DVDを制作・販売してきたさんしゃいん社の青野紘三社長を講師として、「こんなことと言つちゃなんだけ吟剣詩舞」吟剣詩舞を楽しみましょう!。青野社長が編集した映像などをもとに、曲あてをするなど受講生の関心を引き出しました。

笠川良一創始会長は、我々が愛好方法について」。剣詩舞専門委員長でもある早淵鯉将副会長が、令和8年度を目処に審査方法を変更したいということで、現行の採点表と新しい採点表を配布して比較。実際に剣舞と詩舞の模擬演舞を全員で採点しました。

審査方法の変更案に 活発な質疑応答も

2月15日(土)



開講式の最後に受講生誓いのことばを述べる白井翠画1班班長。受講生に選ばれた栄誉を胸に秘め、吟剣詩舞の真髄を学ぶことを誓った

講師と講義の内容



〈一时限目〉 剣詩舞指導者への期待 徳田寿風副会長

吟道大学に初参加した時に「泉を掘った人を忘れるな」と説かれたが、自分が泉を掘る覚悟を持ってほしいと提案



〈一时限目〉 剣詩舞道指導者への提言 早淵鯉将副会長

「新しいものを取り入れるのは大切だが時代におもねってはダメ、伝統芸道を身につけたうえで真剣に遊ぶこと」と提言



〈三时限目〉 公益財団の組織運営と指導者の役割 池内賢二専務理事

公益財団とは何かから始まり、公益財団になった経緯と、公益財団として何をなすべきかを具体例をmajieて解説

する吟剣詩舞の普及振興を目指していくにはまず立派な指導者の育成が必要であり、第一線で日々指導に当たっている皆様方がさらなる学識を高め、自らの向上を図っていくことが先決であるという、提案により、昭和44年に夏季吟道大学が始まり、平成4年に船の科学館にて剣詩舞道大学が開講されました」とその成り立ちを説明しました。

1班白井翠画班長の「受講生誓いのことば」に続いて、一・二・三时限今まで例年行われている講義を実施(右の写真参照)。次の四时限目は今回

〈六时限目〉 剣詩舞の演技研究

こんなこと 言つちゃなんだけ吟剣詩舞

青野紘三先生(サンシャイン社)

長らく吟剣詩舞の映像を撮影してきた立場から①ビデオカメラを通して気になること、②何をメインに撮るか、③伴奏曲の役割と選曲、④曲あてクイズ、⑤著作権制度について、などを解説。かつての武道館大会等の映像を通して、演目のイントロ早あてなどもを行い、受講生も興味津々で回答、「吟剣詩舞を楽しみましょう」というサブテーマに合った楽しい講義となりました。

吟剣詩舞に関するCD・DVDを制作・販売するさんしゃいん社の青野紘三社長。令和元年度に吟剣詩舞大賞文化省を受賞



受講生全員に新採点表を配り、日本壮心流の杉田月星さん(写真)が剣舞で『稻叢懐古』、名倉虹心さんが詩舞で『春月』を演舞、入倉昭星宗家も両方演舞して、それぞれ何点づけかという模擬採点も行われた

モニターを使って剣詩舞コンクールの現行の採点表と改正案の採点表を比較する早淵鯉将副会長



『和歌・敷島の』を 剣舞と詩舞で実習

2日目は6時20分から点呼・とり舟体操。朝食後、バスに分乗して

近くの「碧南市東部市民プラザ」へ。

ここアリーナで八时限目の「剣詩舞実技指導」。上岡暁壮・青柳弦太朗両代議員が、『和歌・敷島の』を剣舞班と詩舞班に分かれて指導します。

勤労青少年スポーツセンターに戻つて昼食後、最後九时限目の「意見交換会」。昨夜の「判別座談会」の内容を各班長が発表するとともに、受講生の質問に役員や講師が答え、熱心な応答が続きました。そして14時から閉講式。各班班長に沼崎学長から修了証書が授与され、受講生を代表して4班小嶋直樹事務局長が「実技指導で行った『敷島の』を武道館大会で披露したいと思います」と発表、受講生の歓声とともに2日間にわたる剣詩舞大学の幕が閉じました。



〈八时限目〉剣詩舞実技指導 上岡暁壮・青柳弦太朗両代議員

1日目の夜に各班に分かれて「剣詩舞の振興をめぐって」について討議した内容をまとめ、各班班長が発表して役員と質疑応答を交わしました。

1班の白井班長は「子供時代に習っていても進学を機にやめてしまう子も多い。場所によって他流派に移って続けることが可能か」と質問。早淵副会長が「宗家同士が納得すれば可能」と回答しました。

2班の星野班長は「学校に頼んで琴やプラスバンドと共に演している」という実例をあげたうえで、来年度から部活動を民間で教えることがスタートするのではと質問。早淵副会長が「神戸市では登録がスタートしている」と紹介しました。

こうした発表の後、各受講者から寄せられた「審査委員の人数が足りない場合は?」や「心に残る演舞は?」などの

流派により足の付け方なども異なるが、皆休憩時間にも自己練習をして見事に動きを習得した



〈九时限目〉意見交換会

1日目の夜に各班に分かれて「剣詩舞の振興をめぐって」について討議した内容をまとめ、各班班長が発表して役員と質疑応答を交わしました。

1班の白井班長は「子供時代に習っていても進学を機にやめてしまう子も多い。場所によって他流派に移って続けることが可能か」と質問。早淵副会長が「宗家同士が納得すれば可能」と回答しました。

2班の星野班長は「学校に頼んで琴やプラスバンドと共に演している」という実例をあげたうえで、来年度から部活動を民間で教えることがスタートするのではと質問。早淵副会長が「神戸市では登録がスタートしている」と紹介しました。

こうした発表の後、各受講者から寄せられた「審査委員の人数が足りない場合は?」や「心に残る演舞は?」などの



会場の前には左から池内専務理事、早淵副会長、沼崎会長、徳田副会長が並び、横に座る剣詩舞専門委員会の各委員とともに受講生の質問に答えた質問に対し、役員や剣詩舞専門委員会が回答し、活発な意見交換がなされました。

令和6年度剣詩舞道大学受講者一覧

1班

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
1	東北	福岡 康剣	8	女	神刀剣桜流剣詩舞剣桜館
2	東日本	齋木 彩染	35	女	彩佑流吟詠詩舞道 二代目宗家
3	中部	佐野 東心	12	女	日本壯心流 南心昭武館 館長
4	中部	北本 希月	3	女	渋川流剣詩舞道 雄聖会会長
5	中部	中嶋 宗山○	32	男	宗生流剣詩舞道總本部 宗範
6	近畿	美馬 義鷹	50	男	正義流剣舞術總本部 最高師範
7	近畿	中町 佳洲	33	女	神伝真正一如流剣詩舞道 宗家
8	中国	白井 翠画○	31	女	吟詠詩舞道玉翠流翠混会 会長
9	四国	中尾 明俊	6	男	陽明流瑞顕会 詩舞部副部長
10	九州	高根 麗峰	28	女	薩摩神刀自念流聖刀館 館長

2班

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
11	東日本	星野 洲虹○	35	女	紫虹流吟詠詩舞道会 会長
12	東日本	山下 神燈	40	女	神燈流総本部 二代目宗家
13	中部	四ツ倉 蓮扇	9	女	(一社)哲泉流日本吟詠協会 愛北支部 剣詩舞支部長
14	中部	宇野 清陽	7	男	至心流至誠館 剣舞部長
15	中部	窪田 榮将	23	男	真舞流吟舞道会本部 宗家
16	近畿	坂上 鯉盛○	20	男	神伝真正早渕流剣詩舞道 大師範
17	中国	今脇 萌山	40	女	菊水流剣詩舞道 大範師
18	中国	河野 翠洋	20	女	吟詠詩舞道玉翠流吳連合会 会長
19	四国	田中 靈明	10	女	大日本水心流剣詩舞道虎嘯館 事務局長

3班

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
20	東日本	志村 静紅	50	女	静風流勘久保会 宗家会長
21	東日本	北川 鍛星	20	男	神明鍛心流 宗家
22	中部	上岡 暁星○	28	女	暁明流剣詩舞道治暁館 事務局長
23	中部	松浦 瑞雲	10	女	舞踊学院瑞聖流 瑞雲会会長
24	近畿	安倍 秀風○	20	男	神心风尚道館総本部 家元
25	近畿	青柳 芳紀	37	女	青柳流剣詩舞道 理事
26	中国	菅原 右光	30	男	菅源流剣詩舞道 宗家代範
27	四国	島田 靈尋	10	女	水心黎明流剣詩舞道黎明館詩舞会
28	四国	鳴岡 靈心	3	女	大日本水心流剣詩舞道虎嘯館

4班

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
29	東日本	後藤 鏡戈○	5	女	瀬心流詩舞道会 宗嗣
30	東日本	五月女 凱昂	15	男	神刀無念凱山流 師範
31	中部	小池 輝星	15	女	日本壯心流 浜松昭武館 館長
32	中部	松澤 天楓	47	男	渋川流剣詩舞道 剣楓会会長
33	近畿	小嶋 一心○	29	男	吟劍詩舞倭水心流 宗範
34	近畿	鉤 逢賀	16	女	正賀流吟舞社 師範
35	中国	大下 馨風	29	女	馨風流吟劍詩舞道 宗家
36	四国	林 柳冠	13	男	天心流南柳会総本部 会長
37	九州	大野 豊寿	46	女	大野流剣詩舞道 家元

笹川良一創始会長の時代から恒例の「とり舟体操」。朝6時20分から点呼の後、石川春海世話役の指導により班長が音頭をとって、役員・講師を含め全員で声を合わせて身体を動かした



早淵鯉将副会長

審査基準の変更は前向きに捉えていただけました

「剣詩舞コンクールの審査の基準が変わることを説明したかったので、現役の審査員、これから審査員になる方を集めていただきました。かなり質問もありましたが、結構前向きに捉えていただけてありがたかったです。結果的に宗家・会長クラスの参加者が多くてレベルの高い大学になりました。現在の大学は場所柄人が限られ、もう少しくさん集まればとは感じますが、いろんな流派の方が集まって稽古するというは意義あることなので、実技も充実させていきたいと思います」



誓いを新たに:班長の声

第1班班長:白井翠画さん



「前回参加した時は140人くらいいましたが、今回は第1班班長という大役で緊張しています。審査員として勉強するのが一番の目的ですが、さんしゃいん社青野社長の講義などは映像也非常に興味深く勉強になりました」

第1班班長:星野洲虹さん



「吟道大学に参加したのが10年前で雾雨気を忘っていましたが、会場に入った途端に背筋が伸びました。早淵先生に審査の方法を詳しく説明していただいたと、講師の先生方の舞が素晴らしくて感激しました」

第1班班長:上岡暁星さん



「2年前に参加して今回は他の方が参加する予定でしたが、諸事情があつて再度出席しました。前回はコロナ禍での開催で班別座談会もありませんでしたが、今回はいろんな先生のお話が聞けて有意義でした」

第1班班長:小嶋一心さん



「青年大学に来て以来2回目です。講師の方々がどんな気持ちを込めて振りを付けているか自分の中で消化できて良かったです。帰つてから京都府総連の皆とディスカッションして今回の経験を分かち合いました」

令和6年度剣詩舞道大学受講者一覧

2班

No.	地区	氏名	指導歴	性別	流会派及び役職名
11	東日本	星野 洲虹○	35	女	紫虹流吟詠詩舞道会 会長
12	東日本	山下 神燈	40	女	神燈流総本部 二代目宗家
13	中部	四ツ倉 蓮扇	9	女	(一社)哲泉流日本吟詠協会 愛北支部 剑詩舞支部長
14	中部	宇野 清陽	7	男	至心流至誠館 剑舞部長
15	中部	窪田 榮将	23	男	真舞流吟舞道会本部 宗家
16	近畿	坂上 鯉盛○	20	男	神伝真正早渕流剣詩舞道 大師範
17	中国	今脇 萌山	40	女	菊水流剣詩舞道 大範師
18	中国	河野 翠洋	20	女</td	